

ISO ガイド50（子どもの安全）及び ISOガイド51（リスク管理の在り方）

（一財）製品安全協会

子どもの安全対策（ISOガイド50） その1

【目的】 こども用製品の安全性確保

規格，仕様書等の指針-製品又はシステムに適合する要求内容

【アプローチ】 子ども特有の要因を考慮

子どもと人、製品とのかかわり方、子どもの発達と行動等を考慮した対応

【対策】 危険の防止と削減

- ▶ ハザード、ハザードへの暴露の排除（一次予防）
- ▶ ハザードへの暴露の確率の低減（二次予防（チャイルドレジスタンス、注意喚起など））
- ▶ 危険の度合いの低減（二次予防（防具の着用など））
- ▶ 救助，治療などにより危害の長期的な作用を低減（三次予防）

子どもの安全対策（ISOガイド50） その2

【安全の考慮事項】 子どもの発達及び行動

- ▶ 発達段階を含めた子ども固有の特性のすべてを検討する
（体形、身体寸法、生理、体力、認知力、情緒、行動など）
- ▶ 「正常の子どもの行動」と考慮されるものは誤使用とは見なさない

【子供の身体特性】 子ども特有の要因を考慮

子どもの身体特徴は年（月） 齢だけでなく分散を考慮する

- ▶ 部位の大きさの、バランスの変化（重心など）に留意する
- ▶ 頭が抜けるスペースは他の部位よりも大→足から胴体を通り抜けたときに頭部が隙間に挟まる
- ▶ 指、手及び体の一部を隙間に差し込む行動に考慮する
- ▶ 運動スキルの発達を考慮する（お座り、寝返り、這う、立ち上がる、のぼる、揺らす等）

安全設計の在り方（ISOガイド51）

【目的】 リスクを許容可能なレベルに低減させる

- 現在の社会の価値観 - 絶対安全の理想と達成できることとの間の最適バランスの探
- 製品又はシステムに適合する要求内容
- 目的及び費用対効果のための適合性の要因

【対策】 リスク管理

- ▶ ステップ1 本質的安全設計方策（最優先の対策）
 - 製品本体の設計・仕様についての基準
- ▶ ステップ2 安全防護及び負荷保護方策
 - 防護用のカバー、安全レバー等
- ▶ ステップ3 使用上の情報
 - 本体表示、取扱説明書等

技術進歩、製品の使われ方の変化に応じて、リスクを許容可能なレベルに低減できるよう追加的対応